長岡地区納税貯蓄組合連合会　会長賞　優秀

税にとっての敵

長岡市立宮内中学校
三年　伊藤　杏

「負担」この言葉は税にとって敵なのではないか。少なくとも私はそう思う。私がこの作文を書くまでに見てきた税に関する教育動画には、大体、最初に主人公が税に対して、「自分の生活に負担になっているだけではないか。」という考えを持っていた。そのため、私は、一般的にもそれらの主人公のように税を捉えている人が多いのではないかと思った。皆さんはどうだろうか。

果たして人々は何をもって税を負担だと考えるのか。世の中の人々の意見を調べてみた。その結果、「なぜ自分で稼いだお金を国に負担しないといけないのか。」や「負担額が大きい。」などの意見が多くあった。私は、これを税に対する関心が少ないからではないかと思う。

では、そんな嫌われている税がなくなったらどうなるかという視点で考えてみよう。私たちが生活する中で、多くのところに税は使用されている。学生である私たちからすれば、教科書などの教材費が税によって補われ、学ぶことができている。子供だけでなく、大人もだ。税によって警察や消防、救急車などの利用ができている。そのため、税がなくなるとこれらの利用ができなくなり、大変不便である。そう思うと本当に税は「負担」なのだろうか。私たちが今、安心、安全に生活できているのは税のおかげなのではないか。よくよく考えれば当たり前だが、だからこそ忘れやすく、世の中の人々の税に対するイメージが悪くなっているのではないだろうか。

更に、税を負担と考えてしまう要因がある。それは、社会問題に税が関連してしまうからだ。特に問題視されているのは、少子高齢化とのつながりだ。将来、高齢者の数が更に増えることで、これからの若者たちの税が増えるという問題があるということを作文を書く際に調べて知った。実際、そのような課題があることを今まで知らなかった。私のように知らない人もいるのではないだろうか。正直、その問題を知ったとき「嫌だな。」と思った。きっと私以外の若者もそう思うだろう。そうなると、これから日本を作っていく若者の税への関心が薄れてしまう。そうならないためにも、若い世代の人たちも今から協力し、どうしたら解決するのか考え、未来に繋いでいくことが大切だと思う。

「負担」という言葉は、私たちの暮らしを保ってくれている税の敵である。その敵に勝つために、より沢山の人が税に関心を持ち、更に良くしていくことが、これからの社会に必要なのではないだろうか。